

## 令和5年度【社会福祉法人泉学園】事業報告

新型コロナウイルスの感染拡大といった事態に直面し、事業運営に大きな影響を受けたこの3年余りであったが、今年度、感染症法上の位置づけが5類へ移行、一部に感染が見受けられたものの、従来みられた広がりや重症化といったものはほぼ見られず、今日を迎えている。各事業所とも以前の支援や取り組みが戻りつつある。この数年の感染禍は、改めて、支援や事業の中身を見直す機会ともなったように感じる。

年明け早々には能登半島地震が大きな災害をもたらし、今だ避難生活が続いていることが伝えられている。この数年の間にも福島県沖等大規模な震災が続いており、風水害含め災害が随分身近なものとなってきているように思われる。BCP（業務継続計画）の策定が義務化され、福祉現場においても災害への備えが差し迫ったものとなっている。

一般市民の犠牲のニュースが絶えない中東情勢、一時的な戦闘停止の動き等は伝えられるものの先は見えない。ロシアのウクライナ進行が始まって2年余りが経過した。1万人を超えるとされる一般市民の犠牲は今もあとを絶たない。他方、私たちが置かれた社会状況に目をやると、個性ある生き方、ジェンダー平等、LGBT、夫婦別姓、共同親権といった言葉が巷に行きかう。昭和を生きて来た多くの人にとっては耳慣れない言葉や価値観といったものが広がりつつある。その一方では、障がい者や高齢者、児童等の虐待のニュースが後を絶たない状況がある。人の命が、いとも簡単に奪われるニュースもあとを絶たない。競争原理が根底にある社会が続く中で、生き辛いものが続いている側面も感じる。命が損なわれない社会の下で誰もが尊厳ある人生を生きられることへ、そのためにも福祉に携わるものには特に”想像”する力が求められているのではと感じる。

当事者の皆さんの生きる姿を前にし、こうした時代の中で私たちがどんなメッセージを届けていくか、この一年を振り返り、支援や事業の在り方を見直し、自己研鑽に努め、しっかりとした価値観を培うことでこれからも前へ向けて歩いていきたいと思う。

### I. 法人運営の重点に沿った振り返り

#### ① 皆さんの支えてとして人材の確保

新卒者の応募が少ない状況がこの一年も続いてきた。次年度に向けた新卒者採用は3名にとどまった。一方で、私ども事業所の中で一定経験を積み、今後に期待をかける中堅スタッフの離職もあとを絶たない状況がみられた。離職理由は様々ではあるが、働き辛い職場環境や日々の仕事が生きがいに繋がらなかった面があったのではと思われる。各事業所でしっかり振り返り、今後に生かしていきたいものと考えます。

#### 具体的な取り組み

- ・社会福祉協議会が実施する福祉就職フェアに参加（5月8月11月）3回の来訪者は計30名、採用に2名繋がる。
- ・職場見学会の実施～希望する事業所に絞った形で実施。9名の参加、内5名が採用に繋がった。
- ・インターンシップの受入れ～デイセンターさくらで1名。
- ・ホームページで採用情報コーナー等随時更新。RECRUIT2024を作成しアップ。
- ・インターンシップ受入1名 ・求人誌、人材紹介等の利用等。 学校訪問は今年度実施できず。

#### 採用実績

- ❖採用試験の実施（随時） ※常勤者（臨時含む）

生活支援員～応募者 23 名、採用者 16 名（新卒者 3 名、既卒者 13 名。

看護師～応募者 2 名、採用者 1 名（既卒者） 事務員～応募者 15 名、採用者 4 名（既卒者）

## ② 収支状況の改善を図り、経営の安定を図る

今年度は 5 月に新型コロナウイルス感染症の 5 類への移行があり、感染状況も一定落ち着いてきたことがあって、一昨年度のようなコロナ関連の閉所や利用者のお休みといった事態は随分少なくなった。利用率の安定や運営経費の見直し、加算等請求の洗い出し等、事業所によっては収支に一定の明るい兆しが見られている。

通所系を中心に特色ある事業所が増えている中で、利用者の流動性も伺える状況がある。又、新年度に向けて報酬改定があり、障がい特性を配慮したことが伺える一方で就労系事業所に見る市場原理を重視した体系を一層進める動きが見え、事業の継続に頭を悩ます今後となりそうである。

## ③ 職員の待遇の見直し

今年度も従来同様、処遇改善加算やベースアップ加算等、待遇の改善に努めてきた。この 2 月から福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金制度も始まり、支給にあたった。又、出生時育児休業制度もスタートした。有給休暇も依然に比べ取得率は上がってきている。昨秋に最賃が見直され、当県では 932 円（全国平均は 1,004 円）と引き上げられた。それに伴い、パート従業員の賃金を 10 月から引き上げを行っている。処遇改善については本体報酬とは別建ての支給としてきている。福祉職場は賃金が安いと言われているが、その下でも人件費率が 8 割を超える事業所も多くあり、何よりも本体報酬の引き上げが必要と思われる。

## ④ 当事者の皆さんの大切な日々をしっかりとサポートする。

コロナ禍が一定収束を見る中で、この一年は各事業所とも以前の日課や活動を取り戻して来つつあるように思われる。個別の支援をベースに、みんなで交わりのある場面や安心ある生活空間づくり等進めてきている。外出行事や地域との交流、ボランティアの来所等々、従来の活発な社会的な交わりや参加を取り戻してきた。閉塞感が漂わざるをえなかったこの数年から卒業し、より活発な活動や生活へ、そして地域の皆さんとの交わりへ、利用者の笑顔が一層多くみられる新たな一年にしていきたいものである。

## II. 各取り組みの現状

### ◇法人各種委員会の活動

#### ❖ 権利擁護・虐待防止委員会（身体拘束適正化委員会）

令和 4 年度から各事業所管理者、サビ管等で構成とした社会福祉法人泉学園権利擁護・虐待防止委員会（身体拘束適正化委員会）を設け運営してきた。併せて、各事業所毎にも委員会（同上）を設け、種々取り組みを行ってきた。この 5 月には虐待通報案件が一件あり、臨時の委員会を開催し検討した。以下、今年度の具体的な取り組み

- ・虐待防止に向けた研修～法人の委員会メンバー及び各事業所委員会メンバーを対象に 11 月 4 日実施。また、新採用職員には 3 月の新任職員研修において講義とグループワークを行った。
- ・指針の整備等～指針の整備及び虐待防止マニュアル、虐待防止自己チェックリスト、支援向上自己チェックリストの見直しを実施。
- ・虐待防止のチェックとモニタリング～年度内に 4 回にわたり、チェックリストに添ったアンケートを事業所ごとに実施した。集計し職員に周知、法人委員会に置いて情報共有を実施した。

以上については身体拘束の適正化に向けても同様に取り組んでいる。

❖ 泉だより編集委員会～9月1日第46号、3月1日第47号をそれぞれ1,200部発行

❖ 法人研修委員会

令和5年7月12日(水) 初級研修～対象者2～3年目の職員(参加者14名)

「法人理念に基づいた支援について」

令和5年8月24日(木) 中級研修～対象者4年～7年目の職員(参加者各14名)

〃 30日(水) 「ニーズ把握について、事例検討を通して」

令和5年9月27日(水) 新任職員フォローアップ研修～対象者当年度入職者(参加者9名)

「泉学園先輩職員からの話しとグループワーク」

令和5年11月22日(水) 上級者研修～対象者8年目以降職員(参加者33名)

「医療的ケアが必要な当事者、ご家族の思い」講師：宮木 悦子氏

「医療的ケア児等の方の地域での生活について」講師：川西 義光氏

令和5年11月30日(木) 管理職及び管理者(会計責任者)研修～(参加者12名)

「会計責任者の果たす役割について」講師：宮崎 栄一氏

令和5年12月12日(火) 役職者研修～対象者各事業所役職職員(参加者30名)

「事業所の管理運営について」講師：村上 眞氏

令和6年3月23日(土) 新任職員研修～対象者当年度中途及び新年度採用職員(参加者16名)

「法人の沿革と組織」「職務規程」

「障がいと人権、権利擁護・虐待・差別について」グループワーク

❖ 地域交流委員会～新型コロナウイルスの影響で見送ってきた地域行事の開催やボランティアの受入れ等について、各事業所において、以前の取り組みを可能なものについて再開してきた。法人全体での取り組みである南ふれあい交流フェスタは今年度も見送りとなった。具体的には泉の園～子ども食堂、みんなの広場うらやすの実施、なずな関連～地域を対象とした夏祭りや餅つき、ふれあい通所事業所～地域の清掃活動、デイセンターさくら～公民館祭り参加等。

イベントやバザー参加を始め、地域を巻き込んだ取り組みにおいても交流の場が広がった一年であった。ボランティアについても演奏やリトミック、活動付き添い等徐々に受入れが進んできた。

❖ 福利厚生委員会～新任職員へ歓迎プレゼントの実施や秋の桑野ふれあいまつり販売参加等を実施。

❖ リクルート(事務局付け)～上記の人材の確保の項で記載済み

### III 施設整備、補助金等

- ・共同募金配分金の受領(現況報告にて報告済み)～デイセンターなずな赤磐福祉車両の購入
- ・日本財団助成金～桑野フレンドリーハウス～福祉車両(日産セレナ 3,534,900円 助成金 2,590,000円)を購入
- ・新たに「グループホームすずか」の開設、この春からスタートしている。短期入所については落ち着くのを待って、この秋頃から事業スタート予定(定員7名、短期入所3名、内1室は緊急時用にと考えている)
- ・30周年事業の具体化～具体化は図れていない。

### IV 法人役員会等の状況並びに実地指導等

令和5年6月12日	理事会	令和4年度事業報告、決算報告、理事・監事候補者の選定、各事業所運営規程の変更等
令和5年6月28日	評議員会	令和4年度事業報告、決算報告、理事・監事の選任
令和5年6月28日	理事会	理事長の選定等
令和5年11月14日	理事会	令和5年度上半期現況報告、補正予算、各事業所運営規程の変更、統括責任者の変更等
令和5年11月24日	評議員会	令和5年度上半期現況報告、補正予算
令和6年3月18日	理事会	令和5年度補正予算、令和6年度事業計画、令和6年度当初予算、諸規程の変更等
令和6年3月26日	評議員会	令和5年度補正予算、令和6年度事業計画、令和6年度当初予算

#### 岡山市指導監査

・2月21日 社会福祉法人指導監査・・・指摘事項はなし

## 令和5年度【泉の園】事業報告

はじめに

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類に変更となり、感染対策の見直しを行った。緩和できる部分は緩和し、グループ活動や外部講師による音楽療法、ボランティアの受け入れの再開等を行い、徐々にではあるがコロナ禍前の状況に戻っていった。重症化リスクの高い方が利用されており、感染者は施設内療養となるためクラスター発生のリスクが高いため、感染対策との両立を図りながら今後も見直しを進めていきたい。

8月には67歳のご利用者(女性)、1月には51歳のご利用者(男性)が病気でお亡くなりになっている。お二人とも長く泉の園を利用してくださった。この間お二人はどんな思いで暮らしてこられたのだろうか、今利用されている方の思いはどうだろうか、私達のご利用者一人ひとりの思いについてももっと考えていかなければならないとあらためて感じた。ご利用者の生活を24時間365日支える入所施設ではご利用者と長い時間を一緒に過ごす。一人ひとりの人生に深く関わる仕事である。ご利用者、職員共にいい人生を歩めるように、いきいきと笑顔で過ごせるように今後も努力していきたい。

### 1 利用者状況(3/31現在)

障害支援区分 6-38名 5-15名 4-1名 平均障害支援区分5.6

在籍数 生活介護-54名 施設入所支援-42名

平均利用率 生活介護-83.8% 施設入所支援-93.7% 短期入所-22.9% 日中一時-12%

平均年齢 生活介護-46.7歳(通所者-32.7歳) 施設入所支援-50.7歳

### 2 グループ活動領域

新型コロナウイルス感染防止のため原則入所(男女別)と通所に分かれて活動を行っていたが、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となり、4年ぶりにグループ活動を再開した。以前は入所と通所合同でグループのメンバー編成を行っていたが、再開後は感染症対策として原則入所を3つのグループ(ネフライト、クリスタル、トパーズ)とし、通所は単独で1つのグループ(ガーネット)とした。久しぶりの活動再開であったが混乱もなく全体的に落ち着いて活動に取り組むことができた。また活動再開を喜びとても張り切って活動に参加する様子が見られた。

クリスタル (11名) ・ウォーキング、ストレッチ、散策、ミュージックタイム(※)等の活動を行った。

・ストレッチは個々に合わせたメニューを取り入れて機能低下防止に努めた。

ネフライト (16名) ・ウォーキング、ストレッチ、空き缶回収、ミュージックタイム(※)等の活動を行った。

・活動内容をわかりやすくし、個々の様子やペース等に応じて散策やドライブ等の活動も取り入れていった。

・空き缶回収は地域の各所に出掛けて行った。

トパーズ (14名) ・刺子、プレートビーズ、キャップやボールペンのマッチング、パズル、ミュージックタイム(※)等の活動を行った。

・複数の題材の中から各自がしたい題材を選び取り組んでもらった。また散策やレクリエーション的な活動も取り入れていった。

ガーネット (13名) ・花壇等整備、空き缶回収、空き缶プレス、資源回収、箱折、ミュージックタイム(※)、音楽活動(通所部)等を行った。

・特に花の植替えや水やり、畑等の整備、音楽活動には力を入れて取り組んだ。

・空き缶回収は地域の各所に出掛けて行った。

(※)ミュージックタイム(外部講師による音楽療法)は、新型コロナウイルス等の感染状況を見ながら月3回少人数で実施した。

### 3 自治会領域

- 代議員 利用者の代表として5名のメンバーが様々な役割に意欲的に取り組まれていた。
- 代議員会 金曜日(9:30~10:30)ー資源回収、行事の計画や立案、掲示物作成等を行った。
- ホームルーム 月曜日午前一代議員が皆の意見を聞いたり、代議員会の報告、行事についてのお知らせ等を行ったりした。
- 行 事 誕生会(毎月第4水曜日)を企画し実施した。感染症対策として全体では行わず、棟毎に分散して行った。  
雨のイベント(6月)、海の家(9月)、クリスマス会(12月…余暇・文化領域と合同開催)を行った。
- 当番活動 ペットボトルキャップの回収・納品を行った。
- アンケート ボランティアに協力してもらい3月に利用者アンケートを実施した。

### 4 余暇・文化領域

- 活動予定作成 月計画、週計画、土・日・祝祭日及び長期特別活動時の余暇計画を作成した。
- 買 い 物 日曜午後又は水曜午後、原則マンツーマン対応で実施した。
- ク ラ ブ 金曜日午後ーお茶、絵画、運動等の活動を棟毎に分散して行った。
- 行 事 花見(4月)・母の日の手紙、端午の節句(5月)、父の日の手紙(6月)、七夕(7月)、スイカ割り、カキ氷(8月)、ハロウィンパーティー(10月)、年賀状作り、クリスマス会(12月…自治会領域と合同開催)、書き初め・とんど焼き(1月)、節分(2月)、ひな祭り(3月)等の行事を行った。  
その他年間を通じてカレンダー作り、壁面飾り作成等を行った。  
感染症対策として行事は全体では行わず、棟毎に分散して行った。
- ビューティータイム 女性利用者を対象として、身だしなみ・ネイルケアを月1回実施した。

### 5 生活領域

- 基本的な生活習慣の支援ー障害特性、加齢等の状況を考慮し、利用者の個別支援指針を作成して職員間の共通認識とした。
- 生活班講座ー利用者を対象に「SDGsについて」「熱中症予防」「風邪・インフルエンザ予防(手洗い)」等の学習会を行った。

### 6 保健・看護領域

- 通院件数ー761件(昨年度730件)、訪問歯科件数ー159件(昨年度155件)
- 入院日数ー利用者4名329日(昨年度利用者2名35日)
- 健康診断一年2回(7月、1月)実施、がん検診受診(40名)、検便一年2回実施
- インフルエンザワクチン接種ー11月(51名)

#### 新型コロナウイルスワクチン接種

- ー5回目 6月・7月(2名)
- ー6回目 6月・7月(34名)、1月・2月(2名)
- ー7回目 1月・2月(31名)

新型コロナウイルス感染症対策として継続して行っていること、感染拡大の状況を勘案して内容を変更しながら行っていることがあるが、現在実施している主な新型コロナウイルス感染症対策は次のとおりである(インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症対策と一部重複)。

- ・検温の実施等による体調把握
- ・マスクの着用、ゴーグルの着用(必要に応じて)、手袋の着用(必要に応じて)、ハンドソープによる手洗い、手指消毒の徹底
- ・共用部分の消毒、定期的な換気の実施
- ・施設内への立ち入り制限(条件付きで許可)、来訪者の連絡先等の把握
- ・面会、外出、外泊の制限(いずれも条件付きで許可)

- ・食事の分散摂取等支援方法の見直し、変更
- ・マスク等感染症対策に必要な物品の購入、備蓄
- ・低濃度オゾン発生装置の設置(大2台、小9台、ポータブル2台)
- ・水栓取替(支援員室2ヶ所、職員室、事務室等)
- ・アルコールディスペンサーの設置
- ・二酸化炭素測定器の設置(4台)
- ・対策会議の実施、マニュアルの作成、利用者及びご家族・職員宛の依頼文書作成・配布

等

## 7 給食委員会

年4回、管理栄養士を中心に関連職種職員や給食委託業者(※)の栄養士等と給食内容等の検討を行った。献立は管理栄養士と給食委託業者(※)の栄養士等が毎月原案を元に話し合いを行って作成した。

(※)給食委託業者については年度途中で見直しを行い、3月よりメフォスから日清医療食品に変更している。

食事形態

刻み無し—25名

刻み有り—17名(一口大(2cm)—6名、荒刻み(1cm)—5名、極刻み(5mm)—4名、ミキサー(とろみ付き)—2名)

その他にも利用者の状況(肥満、アレルギー、消化不良、摂食不良等)に応じて主食の形態変更(全粥、パン粥、マンナンライス、麺の刻み)やご飯の計量、アレルギー食材の除去、代替食等の個別対応を行った(個別対応が必要な方が年々増えている)。

リクエストメニューは6月、11月、2月に実施した。

感染症対策として11月～3月の平日は牛乳をR-1ヨーグルトに変更して提供した。

栄養健康状態の維持、向上を図ることを目的に栄養マネジメントを継続し、個々に栄養ケア計画を作成して栄養に関するケアとマネジメントを行った(入所利用者対象)。—高リスク2名、中リスク15名、低リスク25名。

## 8 防災委員会

避難訓練—5月、7月、9月、12月、2月に計5回実施した(夜間想定、風水害、地震・津波の訓練含む)。

岡山南消防署との合同訓練—12月に実施した。

救急法学習会—日程調整ができず中止した。

## 9 虐待防止委員会(身体拘束適正化検討委員会)

虐待防止の取り組みとして、3ヶ月毎に虐待防止・支援向上自己チェックリストによる自己点検を実施した。実施結果を集計し、集計結果の分析、考察等を行って、その内容を職員に周知した。

身体拘束等の適正化のための取り組みとして、身体拘束等の発生状況の把握、考察等を3ヶ月毎に行い、その内容を職員に周知した。

実習生にもアンケートを行い、外部からの視点で意見をもらうことで職員の気づきに繋げていった。

虐待防止、身体拘束等の適正化に関し、全職種の職員が参加する小グループでの学習会を9月、3月に実施した。

## 10 地域交流委員会

地域交流行事の企画・実施—泉まつりは新型コロナウイルス感染防止のため開催を中止した。代わりに10月に「Spring festival」を企画し、ご利用者、職員で実施した。当日は雨天の為ホールで縁日を開催し、楽しい時間を過ごした。お飾りづくりは近隣でのインフルエンザの流行により開催を中止した。

地域行事への参加—新型コロナウイルス感染防止のため開催自体が中止された。

ボランティア受け入れ—7月と8月に大森増治さんによるギターコンサート、11月にサクソアンサンブル「Wayla」による演奏会を開催した。

ミュージックベル—新型コロナウイルス感染防止のため練習を中止した。

町内会活動—浦安本町町内会賛助会員として廃品回収への協力を行った。

子どもの居場所づくり—社会福祉協議会のバックアップにより、町内会有志と地域の社会福祉法人3法人と共に立ち上げた「子ども食堂 みんなの広場うらやす」を原則毎月第3日曜日に開催した。

#### 11 介護技術スキルアップ委員会

KGU(介護技術アップ)通信を発行し、快適な生活環境作りやボディメカニクスの基本等について啓発していった。

#### 12 苦情解決委員会

苦情解決及びリスクマネジメント等に関する取り組みを行った。

ヒヤリハット	投薬関係—2件(昨年度4件)、離園及び所在確認ミス—2件(昨年度3件)、 転倒—4件(昨年度14件)、利用者間のトラブル及び他害行為—12件(昨年度2件)、 その他—7件(昨年度12件)
事 故	投薬関係—10件(昨年度8件)、離園—0件(昨年度2件)、転倒—7件(昨年度9件)、 利用者間のトラブル及び他害行為—5件(昨年度0件)、その他—11件(昨年度19件) ※内、通院を伴う事故—6件(昨年度7件)
苦 情	1件(昨年度0件) —体重の変化をきちんと報告してほしい等(ご家族より)

#### 13 会議研修委員会

各領域、委員会、係における方針、中間、総括会議、個別検討会議等の全体会議の開催や各種会議の運営方法の検討を行った。

施設内研修(協力歯科医療機関による学習会、嘱託医による学習会)は新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

#### 14 施設外研修(オンライン研修含む)

- 5月 岡山県知的障害者福祉協会第1回総会
- 7月 中国四国地区知的障害関係職員研究協議会  
会計職員実務研修
- 8月 岡山県特定給食施設関係者研修会  
全国知的障害関係施設長等会議
- 9月 給食施設従事者研修会
- 10月 安全運転管理者講習  
岡山県強度行動障害支援者養成研修  
公正採用選考・人権啓発推進員研修会  
岡山市社会福祉協議会創立101周年社会福祉大会  
人権侵害・虐待研修
- 11月 岡山県強度行動障害支援者養成研修  
改正障害者差別解消法に係る説明会
- 12月 意思決定支援に関する研修会
- 1月 障害者の権利擁護・虐待防止に関する研修会
- 3月 集団指導

※その他経験年数、職責等の対象別に実施された法人内研修及び法人権利擁護・虐待防止研修に参加した。

#### 15 その他全体行事

1日社会体験旅行—11月、12月と2回に分かれて、ダイヤモンド瀬戸内マリンホテルへ食事会に出掛けた。

#### 16 施設実習

県下大学・短大より14名(昨年度10名)、年間88日(昨年度47日)の受け入れを行った。



17 短期入所及び日中一時支援

短期入所一のべ利用者数251名(昨年度16名)、日中一時支援一のべ利用者数88名(昨年度62名)の受け入れを行った。

18 多目的ホールの貸出

新型コロナウイルス感染防止のため貸出は中止した。

19 施設等整備

排煙装置修繕(単窓 8 台)

自火報設備取り替え(アナログ感知器 28 個)

女性棟廊下エアコン取替、サーキュレーター設置

桜の木伐採(2 本)

## 令和5年度【ネイチャーファーム】事業報告

はじめに

令和5年度もめまぐるしく変わる社会情勢に限られた時間と人員で必死に対応していくことが精いっぱい的一年であった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も新たな生活様式の影響で扱う商品や販売種別等の形態によって業績の回復に差異があり、特に食品製造業での原材料価格の高騰は商品原価に反映され大きな打撃を受けた。併せて、水道光熱費等の値上がりは日々の活動全てに影響するものであり、販売収益向上に注力する以前に様々な課題に並行して対応していくことの難しさを改めて実感する一年でもあったように感じる。また行動制限等の緩和により地域行事等での販売や卸先は徐々に増えてきているが、学校行事そのものの見直しにより縮小、中止されたもの等もあり、新たな販促形態を模索している状況である。経営的にも非常に厳しく、更には令和6年度の報酬改定により各評価項目の得点配分が変更され、生産活動のスコア項目では生産活動収支が賃金総額を下回った場合には減点となる等、就労継続支援A型事業の運営の継続について、今後事業の転換も視野に入れて検討していかざるを得ない状況である。

### 1. 運営について

管理運営、支援体制の状況

職員配置 7.5:1

今年度も各工房共に就労支援事業により利用者への賃金支払いを行う事業所として日々の売り上げ目標や将来を見据えた取り組みを継続した。社会情勢とコロナ禍の影響で落ち込んだ収益の回復を目標にできることを継続してきたが、今後の販売展開にはまだまだ不安を感じている。

花工房ではコロナ禍に始めた受注販売が好調で、催事販売が減少しても安定した収入を確保することができた。しかし資材の値上げに対し原材料の調整を試みた結果、夏場の苗の成育に支障をきたし、卸苗を購入対応したこと、長年の稼働による作業場設備、機械の老朽化で修繕費等の出費が重なったこと等が収支に影響した。支援体制については、繁忙期は期間契約で職員（パート）を2名雇用し、何とか乗り切った。

パン工房では新型コロナウイルス感染防止対策等により学校関係の販売や大きな行事が令和5年度も縮小や中止になっており、影響が大きかった。継続した取り組みを行ってきた工場直営店での販売は集客が2倍に増えたことで前年度を上回る売り上げが確保できたが、主力の取引先ではコンビニの参入や、他社との販売競争の激化で伸び悩みが続いている。また長年の稼働による大型機械の老朽化や故障で買い替えや修繕が重なったことや、原材料価格、水道光熱費等の値上がり、最低賃金の引き上げに伴う人件費の増加等により必要経費が大幅に増加している。商品の価格設定の見直しや、ロスを減らして商品の原価率を下げているが、収支状況は前年度以上の赤字となった。具体的な収益回復への対策として、従来の取引先にパンと同様に販売できる商品、現在の設備や人員体制で製造できる商品を考え、チョコレートやソフトクッキー等の商品展開を計画している。しかしながら収支を改善するためには月の売り上げを約40万円アップさせる必要があり、かなり厳しい状況である。

### 2. 利用者の状況について（3/31現在）

定員20名 現員18名

花工房 5名ー（男）4名（女）1名

パン工房13名ー（男）8名（女）5名（うち女性2名は短時間契約者）

花工房では前年度入職した女性利用者が精神面での不調により入院されるが、その後も継続して欠勤が続いたため、本人とご家族の希望により12月末に退職された。

パン工房ではご家族の遠方への転居によりアパートで独り暮らしをされていた男性利用者が、通勤時にトラブルがあったことでご家族が不安を持たれ、ご家族と同居することとなり、9月末に退職された。またグループホームから通勤されていた女性利用者が転職希望により3月末に退職された。

### 3. 就労支援事業の内容

#### 花工房

花苗・野菜の育成栽培、ハウス（作業場内店舗）での販売、法人内事業所での委託販売、岡山市指定配布（年4回）、市場出荷、生産者・業者への卸、学校・地域・各種団体からの受注、仕入れ業、植栽の請負等を行った。

#### パン工房

製パン・製菓（焼き菓子等）の製造、店舗販売、バザー委託販売、病院・施設・学校売店への卸・委託販売、学校・地域・各種団体からの受注、移動販売等を行った。

花、パン工房共に賃金は引き続き最低賃金減額特例許可申請により決定し支払いを行っている。今年度は岡山県の最低賃金が40円引き上げられて932円となっている。それに伴い利用者の賃金額も10月に改定し、現在時給は596円～659円となっている。

### 4. 支援内容

#### 職業指導

花工房では商品管理への意識や作業技術向上の支援を継続して行ったが、各自の作業量に偏りが見られることがあった。個々の能力に差はあるものの、作業に対して皆で協力してやり遂げるという意識の向上に向けた支援が課題であった。

パン工房では利用者の退職に伴い全体的な製造体制を見直し、利用者主体の無駄のない製造工程と効率の良い作業分担、適正な労務管理に着手できた。

#### 生活支援

両工房共に個別支援計画に沿って健康や精神面でのケア等個々に必要とされる支援を行った。今年度も利用者を主体として作業や生活面に関する話し合いを各工房で行うことで自主的な行動や発言が見られている。また各利用者の生活環境に携わる家族や関係者との連携により様々なケースの問題解決をその都度行った。

### 5. 施設等整備について

花工房では加温ハウスの自動開閉装置制御盤の取り替え、ボイラー、ハウスの水廻り設備の部品交換、トラックのタイヤ交換を行った。

パン工房では長年稼働している冷蔵庫やミキサーの修繕を行ったが、ミキサーについては部品の摩耗により買い替えが必要となり、令和5年度の共同募金配分金による設備整備を予定している。また蛍光灯本体の老朽化が各所に見られ、今後の課題としている。

### 6. 勤務計画について

花工房では繁忙期、閑散期に応じて流動的に勤務を作成した。

パン工房では各々の通勤手段、作業能力、技術を考慮したローテーション勤務を作成し、必要であれば勤務の変更を本人、ご家族の同意のもとに行った。

また利用者の多様な働き方のニーズに対応できるよう、免許及び資格の取得促進、1日の所定労働時間の短縮、早出遅出勤務、療養休暇の取得等に関する事項を就業規則の附属規程として施行した。

### 7. 防災関連

避難訓練を4回実施した（火災2回、風水害1回、地震1回）。

## 8. 虐待防止・リスク管理

虐待防止自己チェックリスト、支援向上自己チェックリストを実施し、集計結果の考察、周知を行った。またヒヤリハット、事故報告の徹底を呼びかけ、商品へのクレーム、問い合わせにも対応した。事故原因や対策を考えて再発防止に繋げることができるよう、作業現場の事故報告書にその都度記入することで意識の向上を図った。

## 9. 保健看護

健康診断(年1回)、インフルエンザワクチン接種、新型コロナウイルス感染症対策として検温、施設内消毒、換気、マスクの着用、手洗い、手指消毒の徹底、アクリル板やパーテーション、手指消毒器の設置等を行っている。また新型コロナウイルスワクチン接種の呼び掛けを行った。

## 10. 自治会

利用者主体でアンケート等も取り入れ、パン工房ではかねてから楽しみにしていた2泊3日のディズニーランド、東京観光旅行に全員参加し、コロナ禍明けの人混みを感じながらよい社会勉強ができた。

## 11. 苦情及び事故

### 苦情

パン工房で異物の混入(髪の毛1件、カビ1件)の苦情を受けている。その内1件はJAはなやか東店であり、2週間程度の販売停止処分を1度受けている。

### 事故

パン工房の利用者が工場内で転倒して通院し、労災申請をしている。

## 12. 家族会活動

例年通りの定例会議の他、パン工房で作業ボランティアや環境整備をしていただいた。

## 13. 地域活動

新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、福浜、浦安小学校児童を対象としたパン作り体験を2日開催した。

## 令和5年度【桑野事業所】事業報告

はじめに

今年度はゴールデンウィーク明けから新型コロナウイルスの感染症の分類が変わり、世の中の動きもコロナ前に戻ってきている。ご利用者、職員の多い事業所であり、その後も慎重に対応してきたが、年度末の3月に事業所内でコロナ感染者が多数出たため、運営状況にも大きな影響が出た。休業をすることなく終息できたのは、これまでとの違いであった。

支援の質の向上を目指し、県が福祉協会に委託して実施している強度行動障害支援者養成研修に積極的に参加していった。また、事業所内の研修では、小グループでのグループワークを多くして、それぞれが自分の意見を言える時間を増やし相互理解を深めるように努めた。その他、職場環境を良くするための取り組みとしては、アンガーマネジメントの研修を行い、怒りが生じるメカニズムを学ぶと共に自己覚知を促していった。

今後ご利用者のニーズに応えていくと共に、職員の職場環境を良くする取り組みを行っていききたい。

### 【桑野フレンドリーハウス】

#### 1, 利用者の状況及び活動状況

- ・定員 40名 契約者数 42名 (3月末 42名)
- ・定員に対する利用率 91.0%
- ・利用者の支援区分の内訳

区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	未判定	計
20	14	8	0	0	—	—	42

平均支援区分：5.3 平均年齢：45.0歳（令和6年3月31日現在）

- ・退所者 3名  
6/30、1/31、2/29付で退所。いずれも障害者支援施設へ入所のため。
- ・入所者 2名  
4/1、7/1付で入所。1名はワークプラザから異動。
- ・重度障害者支援加算については、年間を通して20名請求した。

#### 2, 職員配置

管理者 1名（兼務） サービス管理責任者 1名 支援員 18名（内パート 4名）  
看護師パート 1名 事務員 1名 運転手 2名 調理員 3名（兼務） 嘱託医 1名  
常勤換算 18.0 職員配置 3：1（昨年度同様）

#### 3, 苦情及び事故

苦情 1件

- ・歩行時に一般の方の腕を掴んだことを支援者は気が付いておらず、少し触れたと思い軽い謝罪のみでその場を離れてしまう。後から掴まれた方が事業所に来て、腕を掴まれたのに謝罪もなく通り過ぎたと苦情があり発覚している。本人及び役職者より謝罪する。

#### 意見 6件

- ・送迎車が急に土手に出てきたため、ぶつかるところだったと事務所に電話が入る。  
⇒ドライブレコーダーを確認するが、危険な場面は分らず、終礼で安全運転を周知。
- ・支援者がヘアゴムを腕に付けていたのに対して、本人が気にするので付けたくないで欲しい。  
⇒終礼でヘアゴムは本人が気にするので手には付けないように周知。
- ・本人が気にするのでトイレ内のお汚物入れに敷いている新聞紙をなくして欲しい。  
⇒声掛けで本人が自制できているので様子を見させてもらいたいことを家族に説明する。
- ・母親が送迎する車の中で本人が突然泣き出し「迷惑になるから。」と発言することがあった為、そのような発言をしている職員がいるのではないかと心配されている。  
⇒担当職員が、ご家族にそのような発言をしている職員はいないことを説明して納得されている。終礼で利用者の方に丁寧な言葉使いや穏やかな姿勢で支援していくように改めて伝える。本人が不安定な際には、静かな環境へ移動しクールダウンを図るように対応する。
- ・バスの乗車時に、配布物の受け渡しよりも乗車を優先させて欲しい。  
⇒終礼で全体に周知
- ・バス乗車時利用者が座席下に手を伸ばした際に、利用者がけがをしてはいけないと思い、職員が腕を持った行為が腕を引っ張られていたように見えた為、腕が心配であった。  
⇒利用者がけがをしないように職員は力を入れずに腕を引いていたのが、外見から強く引っ張っているように見えたことをご家族に説明し、今後同様の支援にならないように気をつけることを伝え謝罪する。

重大事故 なし（通院を伴い岡山市に報告が必要なもの）

ヒヤリハット 所在不明8件 他害行為7件 転倒8件 盗食等3件  
誤薬等3件 送迎間違い等2件 その他16件 合計47件

#### 【桑野ワークプラザ】

##### 1. 利用者の状況及び活動状況

- ・定員 20名 契約者数 20名（3月末時点の契約者 20名）
- ・利用率 91.6%

定員 20名、現員 20名でのスタートとなる。（岡山市の方が 19名、玉野市 1名）

区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	未判定	計
—	3	10	5	0	—	2	20

平均支援区分 3.5 平均年齢：44.3 歳（令和 6 年 3 月 31 日現在）

- ・入所者 1 名
- ・退所者 1 名

6/30 付けで退所。働く事が難しくなってきた方 1 名が 7 月にフレンドリーハウスへ異動。

## 2. 職員配置について

管理者 1 名（兼務） サービス管理責任者 1 名 職業指導員 2 名 生活支援員 2 名

目標工賃達成指導員 1 名 事務員 1 名 調理員 3 名（兼務）

常勤換算 5.0 人 人員配置 7.5 : 1

- ・活動（作業）の取り組みの状況

外作業	2,317,498 円
室内作業	496,575 円
食品	<u>1,015,167 円</u>
合計	3,829,240 円

- ・長島愛生園の清掃作業（月 1 回）が増えたため、昨年度より増額となり平均工賃 10,000 円の目標を達成している。

## 3. 苦情及び事故等

苦情
----

 なし

意見
----

 2 件

- ・出向の際に、本人が購入した弁当とジュースのレシートが入っておらず、しっかりと確認して欲しい。  
⇒本人が購入した際にレシートを財布に入れているのか確認するとともに、降所時にも再度レシートを確認していくこととする。
- ・出向時に散水栓が外れたため、帽子と上着に水がかかり濡れることがあった。連絡ノートで伝えていたが不十分であり、父親が詳細について尋ねてこられる。  
⇒状況について説明すると理解され、次回からは着替えを準備してくれることになる。

重大事故
------

 なし（通院を伴い岡山市に報告が必要なもの）

ヒヤリハット
--------

 転倒等 1 件 所在不明 1 件 他傷行為 3 件 体調不良 1 件  
その他 2 件 合計 8 件

### 〈事業所共通の取り組みについて〉

## 1. 年間行事について

年間行事については、コロナの状況を見ながら内容を検討した。前半は、小グループでの活動が多かったが、後半は全体での活動も増やしていった。また、ワークは全体で、フレンドリーはグループ毎に一日外出を行い、食事会と散策を楽しんだ。ご利用者のお別れ会等の行事もコロナ前に戻し、全体で行うようにした。

## 2. 土曜開所について

原則日数を開所した。7月より3年ぶりにボウリングを再開し、月1回のペースで行っている。また、機能回復訓練室を利用したレクリエーションも再開した。不定期であるがフラダンスのボランティア（アロハノア）にきていただき、ご利用者の楽しい活動の一つとなっている。

## 3. 工賃の支給について

バザーもコロナ前に戻ってきており、昨年度より売り上げが増加している。ワークプラザについては、新しい出向先（長島愛生園の掃除）の収入が良かったこともあり年間工賃1万円の目標を達成することができた。フレンドリーハウスについては手芸品、軽作業、古紙の回収等の収益を、年間1人3,000円を支給した。

## 4. 給食提供について

今年度も魚宗フーズとの業務委託により、サントピアからの給食提供を行った。原材料費の高騰により、4月1日より30円の値上げとなった。新年度も4月より25円の値上げとなり、ご利用者の負担が増えている。

## 5. 健康管理について

健康面について加齢に伴った課題も出てきており、ご家庭との連携の中で細かい配慮に努めた。体力的な問題に加えて認知的な問題も出てきたため、ワークプラザからフレンドリーハウスへの異動をした方がおられた。心のケアについても常にご本人の気持ちに寄り添いながら活動を共にするようにした。怪我や事故についてはヒヤリハット等で環境要因や発生原因を共通認識し未然に防ぐように努めた。今年度は、高齢化に伴うような転倒等のヒヤリハットが増加傾向であった。（各事業所報告の通り）

## 6. 利用者の送迎について

現在ほとんどの方が利用されており、送迎のニーズには、できる限り応えていった。来年度は報酬改定でサービス提供時間を増やすことが必要となり、送迎の変更を行い、送迎時間を短くするなど、事業所での活動時間を長くするように工夫していくことになる。今年度も安全運転に努めたが、車両を擦る事故や保険請求を伴うような事故もあった。幸



いご利用者の怪我につながるような事故は無かった。今後も安全運転に気をつけていきたい。

#### 7. 地域交流について

地域ボランティア（地域の公園の掃除）については、4日実施した。また、7月にはプロムナードで七夕の展示を行った。2月には、小さな美術館に春夏秋冬をテーマにして創作活動で作成した壁面等を展示した。その他さくらまつり、ふれあいまつりに参加し地域の方との交流を深めた。

#### 8. 安心、安全な支援体制作り

今年度の苦情は1件であったが、意見が多くなっている。支援内容によることもあり、ご家族と連携を取りながら対処していった。安心、安全な支援を基本にリスク管理の徹底をはかり、苦情・意見への迅速な対応に努めた。（各事業所報告の通り）

#### 9. 自己研鑽の強化と従業者の資質の向上

県の強度行動障害者支援者養成研修基礎研修5名、実践研修3名参加した。また、法人内の研修には積極的に参加するとともに、外部の研修についても適宜参加していった。

#### 10. コロナ対策について

日常の活動場所や公用車の換気、手すり、物品等の消毒等を行った。また、食事介助や歯磨き支援等の接近、接触を伴う支援の場面では、フェイスシールド、ゴーグルを着用した。3月上旬には事業所内でコロナが流行り、感染者が10名を超えたため保健所に報告しながら開所する事となった。事業所を休むことはせずに対応していった。3/4に最初の感染者が出て、3/14最後の感染者が出て3/19に保健所及び事業者指導課に最終報告を行い終息となっている。感染者は利用者9名、職員12名であった。ウイルスが入ってくると対応に苦慮することを改めて実感することとなった。

## 令和5年度【泉学園共同生活援助事業所】事業報告

### 1. はじめに

新型コロナが5月より感染症法上5類の位置付けとなり、昨年度ほどの拮りはなかったものの夏と冬に数名の罹患者が出て、数日間同じホームの入居者は通所できない等の影響により対応に奔走することはあった。また、元日に起こった能登半島の地震に関する報道等を見るにあたり、感染症のみならず、災害時の対応についても平時からしっかりと想定しておく必要があることを改めて思い知らされたところである。

今年度の事業展開としては、昨年度に定員を59名から57名に減員したものの、「グループホームはまの」の定員増により8月からは59名定員に戻している。また、令和6年4月開所の「グループホームすずか」の準備も進み、強度行動障害のある方の支援についても改めて考える年度となった。

グループホームに於ける支援については、世話人による不適切支援を虐待の疑いがあるとし、通報する案件が発生している。今一度、世話人や夜勤支援員等のパート従業員にも丁寧に学習会を行い、改めて虐待防止、権利擁護について事業所全体で考える機会になった。引き続き利用者主体の支援について、これからもしっかりと向き合っていける事業所であるべく研鑽していきたいと考えている。

### 2. ホームの定員・現員について

①グループホームビーネン	: 定員4名 (現員4名)
②グループホームニュービーネン	: 定員4名 (現員4名)
③グループホーム菜の花	: 定員4名 (現員4名)
④グループホームはちみつ	: 定員2名 (現員2名)
⑤グループホーム福富Ⅰ	: 定員3名 (現員2名)
⑥グループホーム福富Ⅱ	: 定員2名 (現員1名)
⑦グループホームみのり	: 定員2名 (現員2名)
⑧グループホームみのり B	: 定員2名 (現員2名)
⑨グループホームゆたか	: 定員7名 (現員7名)
⑩グループホームひばり	: 定員7名 (現員7名)
⑪グループホームこかげ	: 定員7名 (現員7名)
⑫グループホームつぼみ	: 定員7名 (現員7名)
⑬グループホームはまの	: 定員7名 (現員6名)
⑭サテライトふくとみ	: 定員1名 (現員1名)

定員59名 (現員56名 ; 3月31日現在)

### 3. 利用者の状況及び活動状況

- ・年間利用率…87.2%
- ・入退所の状況

8月… グループホームはまのに1名入居

10月… グループホームつぼみの入居者1名退所

3月… グループホームつぼみに1名入居

10月退所の女性入居者は、長い期間に渡ってグループホームをご利用いただいていた方ではあるが、行動障害が激しくなってきたことによる対応について、ご家族、医療、通所、グループホームとの話し合いを重ねた結果、ご家族の意向で退所となった。ご本人のことを考えるとよい選択であったのかは疑問が残る形となってしまったことは残念であった。

- ・避難訓練： 7月、2月に火災による避難訓練を実施。  
10月に地震、津波による避難訓練を実施。

#### 4. 支援体制及び運営状況

管理者 1名（生活支援員と兼務）

サービス管理責任者 3名（生活支援員、事務員との兼務あり）

※常勤換算 2.0；基準上の必要数 2.0

生活支援員 18名（サビ管兼務含めず、世話人兼務含む）

※常勤換算 11.9；基準上の必要数 11.3

世話人 27名（生活支援員兼務含めず）

※常勤換算 15.5；基準上の必要数 14.7

看護師 2名（非常勤）、夜間支援員 7名、事務員 1名。

- ・グループホームはまのの住居定員増 5名→7名（8月）  
これに伴い事業所全体の定員増 57名→59名（8月）

#### 5. 職員研修について

主な外部研修への参加は以下の通り

- ・サビ管基礎研修 1名
- ・サビ管実践研修 1名
- ・強度行動障害支援者養成研修 2名
- ・中四国職員研究協議会（7月） 1名+係員 2名
- ・全国グループホーム等研修会 in ひろしま（10月） 2名

#### 6. 苦情、事故、ヒヤリハット等

<苦情>

1件（アパートの一般住人の駐車中車両に自転車接触）

<ヒヤリハット>

56件（内訳：転倒…10件、服薬関連…18件、一時所在不明…3件、連絡ミス…3件  
危険行為…6件、その他…16件）

<事故>

22件（内訳：服薬関連…7件、器物損壊…6件、転倒(怪我)…3件、所在不明 2件  
他害行為…4件）

<意見>

4件（内訳：食事の中に髪の毛混入、支援者の電話対応について、同居者にして等）

## 7. 短期入所について

利用実績：705人

昨年度より年間の実績は100名近く増えている。グループホームこかげの利用はほぼ毎日埋まっている状況で、新規で受け入れる余裕はなく、新規契約は数件あったものの、実際に利用できる状況にはなっていない。地域の中での期待値も高く、要望通りに応えきれない状況は大きな課題にはなっているが、令和6年度にグループホームすずかでの短期入所を開設する予定ではあるため、地域のニーズに応えられるようできるだけ早く開設に向けて準備をしていきたい。

## 8. 今後の課題

令和6年度は「グループホームすずか」を4月に開設することになっている。強度行動障害の方の地域生活支援の実現に向けての新たな取り組みとして、この地域の（法人内の事業所も含め）布石になればと考えている。

全体的な利用者支援に於いては、意思決定支援を念頭に、一人一人の希望を丁寧に聞き取ることであったり、また意思表示の難しい方の意思決定支援の進め方についてももしっかり検証し取り組んでいきたい。

また、全国的に見ても障害者虐待はいまだ多く報道されており、特にグループホームに於いては、事業者数の急激な増加に比例し、虐待の報告数も増えている現状がある。今年度には営利目的で全国展開し、急速に施設数を増やしていた事業者による不適切な運営が大きく報道されている。そういった事案があることを今一度支援者一人一人が心に留め置き、障害者福祉のあり方について、また、利用者主体の支援について改めて見直し、襟元を正しつつ日々の支援にあたるように心がけたい。

## 令和5年度【岡山南障害者地域生活支援センター「パンフルート」】事業報告

### 1. はじめに

居宅介護や行動援護、重度訪問介護などの訪問系サービスは、対象者に様々な支援を提供しなければならない。又、地域支援事業における移動支援も個々の障害特性に合わせた支援が必要となる。

### 2. 職員の状況について

- ・常勤職員 4名(常勤換算 3.5名、常勤職員 1名グループホームと兼務)
  - ・登録ヘルパー3名(常勤換算 0.7名)。
  - ・7名体制(常勤換算 4.2名)で事業運営にあたる。
- 5月に常勤職員 1名 GHに異動となり 6名体制で業務運営にあたる。

### 3. 苦情、ヒヤリ・ハット、事故等について

\*ヒヤリ・ハット 4件 ・ケア事故 1件 ・破損 2件 ・苦情 1件 その他1件 (計 9件)

(ヒヤリ・ハット)

- ・行動援護時、外出時に持ち物を確認したが健康保険証を玄関に忘れバス停まで届けてもらった。
- ・買い物時にスーパーに財布を忘れる。すぐ取りに行き今後気を付けるよう謝罪をした。
- ・訪問時間を間違えた。2件

(ケア事故)

- ・移動支援時で日傘使用にてウォーキング中、路面が荒れて段差もあった場所でバランスを崩される。すぐに身体チェック、怪我・痛み等なし。グループホームにて数日様子を見てもらう。体調等に問題なし。(※市町村への報告まで至らない事故)

(破損)

- ・身体介護支援時に電動爪削りを使用中にプラスチックカバーをお尻で踏んで破損。  
弁償は良いと言われ本人、ご家族に謝罪した。
- ・家事援助時、洗い物中に手が滑り、コップが飛んでお皿が破損する。  
同じサイズのものが良いと言われ、同じサイズのデザインが違うお皿を代替品として弁償した。

(苦情)

- ・受給者証を返却されていないとご家族から連絡あり。郵送で受け取った職員が取り込んでいた。  
ご家族に謝罪し返却した。

(その他)

- ・公用車の左前バンパーが擦れており、運転時などに擦ったものではなく、どこで当てたのか不明。  
保険で修理を行った。

### 4. 経営状況

新型コロナウイルスが5類になりキャンセルなど減り全体的に増加傾向にあった。

居宅介護事業(家事援助・身体介護・行動援護)については、身体介護以外は増加だった。身体介護の支援時間はあまり変わらなかったが、早朝、夜間が増え収益は上がった。

地域支援事業(移動支援)については4月に登録ヘルパー1名退職。コロナ禍より改善したが、人員がおらず、コロナ前には戻っていない。

福祉有償運送は、ほぼ毎月問い合わせ等はあるが既存利用者(居宅介護・地域支援事業)の対応、人員不足で受けられない状況である。

収益面は依然事業所単独での経営は難しいが、かなり改善した状況である。

## 5. サービス利用状況について

各サービスの利用状況については以下の通りです。

### (1) 居宅介護事業

(家事援助・身体介護・通院介助・通院等乗降介助・重度訪問介護・行動援護)

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
30名	3498.75時間	1件	0件

\* 昨年度支援時間 3,231.25時間

- ・利用者数前年 32名。
- ・家事援助は+111時間、1名介護保険へ移行による中止、1名支援中止等だったが、感染症によりキャンセルが減り、新規の利用や追加依頼があり支援時間増加した。
- ・行動援護、前年より+171.5時間。新型コロナの行動制限緩和に伴い、感染対策を徹底し、支援時間を伸ばしたりコロナ予防で中止されていた利用者が再開したりしたことで支援時間増加が増加した。

### (2) 移動支援事業

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
28名	1803,5時間	0件	0件

\* 昨年度支援時間 1,359時間

- ・利用者数前年 28名。
- ・前年より+444.5時間。R5.5月ゴールデンウィーク明けより5類になり感染状況の様子を見ながら人込みを避ける対策や、マスク・消毒などの感染対策を徹底し、楽しみにされている外出を継続し様子を見ながら支援時間も増やしたことで支援時間が増加した。

### (3) いきいきいずみサービス事業

延べ利用者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
3名	6時間	0件	0件

\* 昨年度支援時間 2時間

- ・利用者数前年 1名。
- ・福祉サービスでの対応ができなかったケースを、いきいきいずみサービスで代行対応する。

#### (4)福祉有償運送

稼働契約者数	利用件数	総走行距離	苦情件数	事故件数
23名	489件	6,270km	0件	0件

\*昨年度利用件数 514件 昨年度走行距離 6,101km 稼働契約者数 13名

- 登録契約者数 36名。
- 引き続き感染防止対策として、外出支援時(行動援護・移動支援)の交通機関の代わりに福祉有償運送を利用される利用者が増加傾向にある。また、雨などの天候不良時は傘がさせない等により、今まで外出をキャンセルされていた利用者が有償運送にて移動され、キャンセルなく外出することができ、本人の楽しみに応えている。また、高齢化傾向にあり歩行状態が悪い方で交通機関が利用できない利用者さんを福祉有償運送利用にて対応するケースもあり、稼働契約者数が増えている。
- 福祉有償運送の新規依頼は変わらず多いが、依頼時間帯・人員不足の関係で受けられない状況である。
- 近年の物価高騰により、今後運賃の値上げを検討していきたいと考えている。

#### 6. 今後の課題

新型コロナ前の時間数に戻りつつあるが、人員不足の為、断るケースも多い。5月GW明けから5類へ変更となったが、季節性ではない事を考慮していかなければならないと考える。(特に行動援護・移動支援の外出支援)

地域で支援を求められている方が多い現状を鑑みると、人員確保・質の向上は今後の大きな課題であると考えます。

# 令和5年度【岡山南障がい者相談支援センター】事業報告

## 1. (はじめに)

岡山市内において相談支援体制の2層目の役割が重要視され、地域からの認知度も高まるのに伴い、役割を果たす責任が大きくなっていることを年を追うごとに認識している。

そのような中、計画相談支援、障害児相談支援は、指定特定相談支援事業所としてお応えしきれず、委託相談支援事業所として他事業所へお繋ぎする対応を継続している。地域移行支援については新たに契約するケースはなかったが、関係機関と連携する取り組みには参画を続けている。また、今年度は岡山市の障害福祉計画及び障害児福祉計画の見直しの年であり、計画作成ワーキンググループへの参画も行なった。

個別給付以外の一般的な相談、専門的な相談支援の実施や障害者虐待防止に関する取り組み、事業所支援や研修の機会により地域の支援力向上の一助としての取り組みも例年同様に自立支援協議会を通じながら実施した。地域生活支援拠点事業(24時間対応等)の緊急で過ごし場所を要する案件は、他機関のお力をいただいで対応(面的整備)が多くなっており、多機能型の機能を果たせるような法人内連携を次年度の課題としたい。

基幹相談支援センターが岡山市に設置されて丸三年が経過した。四法人による共同運営で徐々に認知や業務の流れが出来つつあると認識している。今後、泉学園からも人材を送る中で、地域社会からのニーズに呼応できる確かな人材の見通しをつけていく必要があると感じている。法人内においてソーシャルワーカーとして業務が遂行できる育成体系も考えたい。

## 2. (管理運営、相談支援体制の状況)

管理者	相談支援専門員	相談員	事務員	計(実人員)
1(兼)	5(専1、兼3、派遣1)	1(派遣)	1(兼)	7

## 3. (実施の重点として)

### ア) 計画相談支援・障害児相談支援

計画相談・障害児相談への依頼は随時受け止める中で、自立支援協議会を通じて地域の相談支援事業所へのつなぎで対応してきた。

### イ) 岡山市相談支援機能強化事業

複合的な課題を有する事例への対応に関し、市の総合相談体制との連携を図ったり、事業所支援等による専門性を発揮できるように努めた。

事業所支援については特にアウトリーチにおいて次年度を見据えて他の相談支援機能強化事業所への働きかけもおこなった。

### ウ) 岡山市地域生活支援拠点事業

常時の相談受付体制、緊急時支援、人材育成(相談支援 OJT)などに取り組んできた。また、地域づくりの一環として、地域の相談支援事業所やサービス提供事業所との連携や質の向上を意図した取り組みとして事業所のアウトリーチを行なった。

### エ) 岡山市障害者基幹相談支援センター事業

センター長1名(専従)、専門職員2名(専従、兼務)として派遣した。派遣先はひらた旭川荘内(北区平田407番地)。

## 4. (地域の支援に関する取り組み)

### ○障害者自立支援協議会(県・市)

(岡山市) 運営に関する会議、各種専門部会やワーキンググループ、地区における事例検討会・課題整理、に参加した。

(岡山県) 専門部会(人材育成部会)に参加し、広域的な課題への取り組みを行った。

### ○相談支援専門員の養成および育成

・岡山県実施の法定研修としての初任者研修・現任者研修・サビ児管研修・主任相談支援専門員研修に協力した。

・市主催の計画相談支援に関する研修の企画運営等に協力した。



○県立支援学校および医療機関等

- ・連携に係るネットワーク会議やケア会議に参加。
- ・支援学校のPTAの研修会講師依頼にも応じた。

○岡山県障害者相談支援アドバイザー事業

- ・県下市町村あるいは圏域への支援（地域自立支援協議会、支援体制整備に係る支援、支援者の人材育成等）を実施。

(職員の派遣)

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自立支援協議会関係	5	6	6	6	7	8	5	7	6	7	4	7
県アドバイザー事業	-	2	2	1	2	2	1	-	-	3	-	4
機関との会議等	1	2	1	2	1	2	1	1	1	2	2	3
各種研修会等			1	4	4	4	2	3	2	3	1	1

5. (職員の研修) \* 法人内研修除く

開催月	派遣内容	主催	開催地
毎月	市協議会地域部会事例検討会	市協議会地域部会	岡山市
10月	岡山市計画相談に関する研修会	障害者自立支援協議会	岡山市
10月	地域移行研修会	岡山市	岡山市
10月	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	岡山県	岡山市
11月	介護支援専門員と相談支援専門員合同研修会	相談支援専門員協会・介護支援専門員協会	岡山市
11月	精神保健福祉連絡会地域別研修会（南区南）	岡山市	岡山市
12月	意思決定支援研修会	岡山市障害者基幹相談支援センター	岡山市
1月	障害者の権利擁護・虐待防止に関する研修会	岡山市障害者基幹相談支援センター	岡山市
2月	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	岡山県	岡山市
3月	岡山市計画相談支援に関する研修会	障害者自立支援協議会	岡山市
3月	強度行動障害支援に対応した相談支援専門研修	相談支援専門員協会	岡山市
3月	中国地区知的障害関係施設長会議	知的障害者福祉協会	山口市

6. (次年度に向けての課題や取り組み)

計画相談支援および障害児相談支援の対応は新規の契約受入れが難しい状況となっている。他の指定相談支援事業所にお繋ぎするなど、当事者の方が漂流しない対応に努めたい。現契約者に対しては、他の事業に圧迫されて対応が疎かになることがないように努めていく。

地域生活支援拠点の枠組みとなっている相談支援専門員の個別支援をテーマとしたOJT事業（岡山市）は、今年度は3名の方を対応させていただいた。次年度も対応は継続する。地域の人材育成については相談支援機能強化事業に対しても役割を求められている。岡山市障害者自立支援協議会を通じた取り組みと個別の対応をこれまで通り行なっていく、役割を果たしていく。地域生活支援拠点事業は地域からの評価を年に1回は受けることとされており、先に挙げた、多機能型としての機能を果たせるように法人内で連携を取れる体制づくりが次年度の課題と考える。

事務所の空間の狭さは長らくの課題となっている。人員増を見込んでいけるようなハード面の整備に向けて検討を継続したい。

相談支援専門員の資格取得要件として実務経験が必要になる事から、相談支援業務に携われる人材を育成するには時間を要する。その為、事業所単体だけの取り組みでは困難な面もあり、法人の協力を仰ぎながら相談支援専門員の育成を考えていきたい。

広域的な取り組みとしては、県内市町村・圏域からの相談支援体制に関する支援に対し岡山県庁を通じて取り組んできた。また、国の新カリキュラムとして実施される相談支援初任者研修並びに現任者研修、主任者研修に係る法定研修等への協力を行なった。

## 令和5年度【障がい者デイセンターさくら】事業報告

令和5年度はコロナ感染症が2類から5類に移行したことでコロナ以前の状態に戻す動きがみられる1年であった。完全に収束しない中での緩和はリスクを伴う動きではあったが、幸い当事業所では感染が拡がることなく徐々に制限を緩めることができたように思う。様々なイベント等も再開され、バザー、行事の実施にも前向きに取り組めるようになったことはご利用者にとっても嬉しい状況であったのではないかと感じている。

生活介護は外出の機会を持てるようになり、就労継続ではバザーが再開されたことで商品の受注、販売による売上げ、喫茶店舗への来客数の増加により収益増に繋がった。この勢いを更に発展させていきたいものである。

運営の面では、新規ご利用者の獲得に向け、募集の呼び掛け、問い合わせに対する丁寧な案内、見学や体験の受入れに力を入れてきた。問い合わせ件数は多いものの、契約直前で辞退されるケースが数件あり、厳しい状況が続いていた。年度後半になって2名の方と契約することができ、安定した利用に繋げることができた。ただ、依然として通所が安定しないご利用者が数名おられる為、改善策を見出すことが課題として残っている。

### 《生活介護事業》

コロナ感染症の5類移行を受け、少しずつ制限の緩和をしていく1年であった。室内での活動内容の工夫は継続しつつ、外出活動も様子を見ながら取り入れるつもりであったが、インフルエンザの流行もありドライブによる活動に留めることとした。ただ、行事による外出の機会や、外部からのボランティア参加等の受入れをすることで楽しみの部分は少し広がりを持つことができたのではないかと感じている。

#### 1、定員並びに利用状況

- 定員:10名（変更なし）      ○平均利用率：100%
- 契約者数：13名（令和6年3月31日現在）
- 障害支援区分：平均5.7（区分6→10名、区分5→2人、区分4→1人、区分3→0人）

#### 2、職員配置 変更なし（人員配置2：1）

- 正規職員（事務員）1名 令和5年9月30日退職
- 正規職員（事務員）1名 令和5年9月1日入職
- パート職員（看護師）1名 令和6年3月12日退職

#### 3、主な支援内容

- 午前是个々のニーズに沿った活動を提供するための個別活動、午後は仲間とのふれあいを楽しんでいただくため、集団での活動を提供した。
- 個別活動（午前）：ビーズ通し・塗り絵・機能訓練・壁面作り・入浴他。  
個別支援計画に基づき、ご利用者の意向を意識して活動提供できるようにした。また、

ご利用者の意思確認をすることでご利用者の希望に沿うよう支援した。

○集団活動（午後）：ミーティング活動・レクリエーション・おやつ作り・創作他。

ミーティング活動でご利用者に取り組みたい活動等の希望を聞くようにした。また、活動を2つに分けてご利用者が活動を選択できるようにした。希望する活動への関心を高めることとなり、積極的な活動参加に繋がった。

### 《就労継続支援B型》

コロナ5類移行を受け、イベント等の開催が増えたことでバザー参加や商品の受注が増え、売上げに繋げることができている。喫茶店についても、来客者数が徐々に戻ってきている。ただ、コロナ以前の売上げまでには至っていない為、売上げ増に向けての対策をとっていききたい。

下請け作業については、題材が滞ることなく安定的に入荷しているが収入と支出のバランスがとれていないグループがある為、新たな作業題材の確保に向けて動いていきたい。

#### 1、定員並びに利用状況

○定員：30名           ○平均利用率：84%

○契約者数：34名(令和6年3月31日現在)           \*新規契約2名

#### 2、職員配置    変更なし（人員配置6：1）

○パート職員（調理員）1名 令和5年7月1日から桑野に異動

#### 3、主な作業内容

○スイーツ（食品加工）・くらふと（製品加工・手芸） 収支差：+87,968円

→\*収入：スイーツ…4,011,563円（前年度より+761,302円）

くらふと…1,819,063円（前年度より+41,247円）

\*支出：スイーツ・くらふと…5,742,658円

（原材料費1,740,022円、経費853,531円、工賃3,149,105円）

◇スイーツでは、元気の輪、岡山県セルフセンター、倉敷中央病院、積善会、赤磐市役所とは変わらずに取引を継続することができている。前年度同様にお中元、お歳暮、餞別品等の品物として活用していただけるようにチラシを作成、配布した。新商品のマドレーヌが好調であり、多くの受注があった。また、元気の輪のカタログを見た方から大口の注文をいただくこともあり、売上げに繋げることができた。

◇くらふとでは、下請け作業の題材入荷は安定し、作業に多く携わることにより収入に繋がっている。しかし、単価の高い題材に取り組めるご利用者は少なく、単価の安い単純作業に取り組むご利用者が多いことから、作業で得る収入に対し、工賃で支払う支出とのバランスがとれていない状況も見られている。取り組む作業の整理と新たな題材の確保に向けて動く必要がある。

手芸については、手隙の時間を利用して行なっていたが、新商品をバザーで出

品した際に好評であったことからバザーだけでなく、店舗でも販売するようにした。時には商品の問い合わせがあることもあり、種類を増やして販売していく予定である。

○カフェつみ木 収支差：+397,905 円

→\*収入：8,128,850 円（前年度より-2,737,506 円）

\*支出：7,730,945 円

（原材料費 3,430,460 円、経費 1,064,955 円、工賃 966,815 円、職員人件費 2,268,715 円）

コロナやインフルエンザといった感染症の影響で来客数は思ったより伸びなかったものの、前年度と比較すると増えてきた印象がある。ただ、令和4年度と比べると、デイサービスの収入がなくなった分が大きく収入面でマイナスとなっており、今後に向けて収入を伸ばす手立てを打つ必要を感じている。

#### 4、利用者工賃

○月平均：13,611 円（※新算定方式での算出） 時給平均：139 円

（前年度：10,471 円）

（前年度：148 円）

就労継続全体で基本時給 80 円とした。

くらふと（一部の方に勤勉手当 20 円、リーダー手当 20 円、技能手当 1 20 円を支給）

スイーツ（一部の方に勤勉手当 20 円、リーダー手当 20 円、技能手当 1 20 円、技能手当 2 30 円を支給）

つみ木（一部の方に勤勉手当 20 円、リーダー手当 20 円、技能手当 1 20 円、技能手当 2 30 円を支給）

#### 《多機能型事業所さくらとして》

○地域との交流

- ・地域美化活動→さくら周辺の空き缶やゴミ回収、事業所周辺の草取りを実施。
- ・餅つきは中止。福浜公民館まつりへの参加については、ご利用者の作品展示と支援者によるスイーツ販売のみの参加とした。

○ボランティア受け入れ

- ・ボランティアの受け入れについては、コロナ感染症の5類移行を受けて様子を見て再開することとした。

○虐待防止・身体拘束適正化に向けての取り組み

- ・3カ月に一度行われる法人権利擁護・虐待防止委員会によるアンケートを基に、その結果からテーマを探り、毎回学習会を行っている。

○全体行事

- ・一日社会体験については、近場での設定ではあったが、外出と飲食が楽しめる形で実

- 施した。もちつきについては、インフルエンザ感染症の流行を考慮して中止した。
- ・クリスマス会では、岡崎理事長、福田理事がサンタとトナカイに扮して参加していただき、ご利用者も大変喜ばれていた。また、イオン岡山からケーキ等の贈呈があり、充実したクリスマス会となった。
  - ・忘年会については、つみ木の店舗を貸切とし、数回に分けて実施した。
  - ・就労継続のグループは、年度末に慰労会を実施。外食をすると共に1年の労を労う場となった。
- 土曜、祝日の開所日
- ・生活介護、就労継続合同での実施→月によって回数のバラつきがあるが、月1～4回実施。生活介護は平均9名、就労継続は平均18名程が利用。
- 健康管理：\*生活介護に1名看護師を配属。年度途中で1名看護師を追加している。
- ・10月に定期健康診断（希望者）を実施。生活→6名 継続→20名
  - ・11月にインフルエンザ予防接種（希望者）を実施した。（26名）
- 給食サービス：\*給食会議を1回実施。
- \*今年度の嗜好調査は1回行なった。
- (株)メフォスに委託して給食の提供をお願いしている。調理員2～3名で対応。
- 送迎サービス：\*生活介護→13人 就労継続→23人
- \*ご利用者・ご家族の希望に沿って時間差送迎の対応を実施。
- ヒヤリ・ハット：(なし)
- 事故（35件）：転倒、送迎忘れ、車両接触、切傷、破損、所在不明等。
- 事故発生（6件）：車両ドアの壁接触、USBデータ破損、リフト車両エンジン破損  
 当て逃げによる公用車バンパー破損、転倒による不全骨折、転倒による打撲

## 令和5年度【デイセンターなすな】事業報告

はじめに

5月に新型コロナウイルスが5類に移行されたことに伴い、地域の方々との行事やボランティア・実習生の受け入れ、外出や一日旅行など、外部との交流や社会体験の機会を少しずつ再開させることができた。利用者の方々が色々な人と触れ合ったり、外へ出かけて行きたくさんの刺激を受けたりと楽しい経験を積むことができる日常が戻りつつあることを嬉しく思っている。

4月に2名の支援学校卒業生をお迎えし、7月には定員を20名へと変更したこと、既在籍者が利用日数を増やされたこともあり、各曜日定員を満たしている状況となっている。安定した経営に向けて今後もできることを地道に積み重ねていこうと思う。

### 1. 事業内容および利用状況

- ・定員…20名（令和5年7月より定員25名から20名に変更）
- ・契約者数…49名（うち8名は土曜開所のみ利用）
- ・平均利用者数…17.3人/日
- ・障害支援区分…49名すべての方が6

### 2. 職員配置

令和5年4月～6月の人員配置体制（2：1）

令和5年7月以降の人員配置体制（1.7：1以上）

年度スタート当初は、管理者・サビ管の交代や職員の異動・欠員があり、全体的に落ち着かない感じがあったが、職員の補充が進み、徐々にゆとりのある支援ができるようになってきたように感じている。

### 3. 支援体制

#### ① 健康管理

感染症関連でお休みされる方や自粛をされる方は少なくなってきたが、これまでと変わらず基本的な感染対策（手洗い・消毒・換気）をおこない予防に努めている。一人ひとりの健康状態や年々変化していく身体状況について、職員の支援技術の向上やそれぞれの気づきや情報共有が大切であるが、その面での弱さを実感することが多かった。医療的ケアのニーズも年々増えてきており、看護職員の募集をかけ増員を図りたいところであるが、採用にはつながっていない。

#### ② 日中生活・日中活動

年度当初は人手不足から急な予定変更や利用者の方に待っていただくこと、十分な活動提供ができていない時間が少なからずあったことを申し訳なく思っている。ゆとりができてからは少人数で外出に出掛けることもできており、一部の利用者の方々が新たな取り組みとして手工芸作品の制作を始めている。作品展などで作品を

紹介し、ご本人の励みに繋がればと考えている。

③ 入浴

月～金の午前午後と稼働しており、延べ 31 名（週）の方が入浴されている。入浴のニーズに応えられていない部分もあるが、お休みなどで空きが出来た時には、待たれている方を優先的にお声掛けしている。

④ 送迎

送迎職員は順調に増員できている。次年度中に送迎ニーズの洗い出しをおこない、1 件でも多くの要望に応えていけるよう整えたい。

⑤ 土曜開所・祝日開所

原則日数に照らし合わせて、土曜開所や祝日開所は年間予定に沿って実施したが、土曜開所において利用が 10 名に満たないような日が多くあった。祝日開所については利用希望が多いので、次年度は土曜より祝日に開所する方向で考えたい。

⑥ 地域交流・地域防災

今年度は 4 年ぶりになずなまつりを開催することができ、地域の方々にお越しいただくことができた。地域の行事にもお声掛けいただき出店等で参加させていただいている。1 2 月に隣家（農機具屋）で火災が発生し、なずなの職員が火の手を発見し通報・初期消火にあたり大事には至らなかったということがあった。開所から 10 年、これからも地域の方とつながり、地域の役に立つ事業所でありたいと思う。

⑦ 行事

上半期はお花見や運動会週間、下半期にはなずなまつりや仮装大賞をおこない、一年を通して 10 周年を記念した一日旅行を企画した。ご家族も一緒に思い出に残る楽しいひと時となった。一日旅行については年度内に全員の実施がかなわず、次年度も引き続き企画していくこととしている。

⑧ 虐待防止・身体拘束の廃止

虐待防止委員会（身体拘束適正化検討委員会）の委員が中心となって、個々の支援の振り返りや虐待の防止・身体拘束の廃止に向けた学習会をする機会を設けた。学びの機会を重ねるごとに、職員の虐待（不適切な支援）に対する感度が上がってきており、これまで当たり前になってきていた支援についても、会議の場で問題提起してもらい、職員全体での話し合いから改善策を見出す流れができている。

## 令和5年度【デイセンターなずな赤磐】事業報告

はじめに

令和5年度がスタートして間もなく新型コロナウイルス感染症が感染症分類の5類に移行したことにより、世間の様々な動きがムクムクっと動き出した感がある。今は“何だったのか！？”という感覚が湧くような状況であるが、未だにマスク着用と手洗い、消毒の日々であり、要所要所でのプラスチック手袋着用は欠かしていない。とはいえ、日々の散策や買い物その他、下半期には小グループでの一日旅行やハロウィン行事、餅つきや花見等、平常の落ち着きは自然と取り戻してきている。

新卒の方1名を迎えることのできた令和5年度も、年度中に2名の方を亡くしてしまった。新たに2名の方が利用され出したり、既利用者の方からの利用日増の希望もいただいて少しずつ増やしてきてはいる。が、様々な事情で休まれる方も多く、一日当たりの利用者数は17.44名と若干減少(昨年度は17.56名)した。令和7年度の新卒の方の利用希望も視野に、定員超過減算も考慮しつつの運営となるもよう。

令和6年度に向けた報酬改定ではその理解と解釈に多くの時間を要し、今もって見切り発車の感が否めないところではあるが、県の担当者の方に相談もしながら対処していきたい。

### 1. 令和5年度事業の状況及び実績について

- ① 生活介護事業(障害福祉サービス)、主な対象の方は重症心身障害の方並びに身体障害の方
- ② 定員20名
- ③ 契約者数43名(岡山市24名、赤磐市13名、瀬戸内市4名、備前市2名)
- ④ 障がい支援区分別利用者数(区分6~39名、区分5~1名、区分4~2名、区分3~1名)
- ⑤ 年間開所日数~269日(土曜日開所、祝日開所含む)
- ⑥ 年間延べ利用者数~4,692名(一日の平均利用者数17.44名)

### 2. 職員配置について

管理者1名(いちばんぼし、輪家兼務)、サビ管(管理者兼務)、主任生活支援員1名、主任看護師1名  
生活支援員11名(常勤8名~ほとんどが輪家兼務、非常勤3名)、看護師3名(輪家、いちばんぼし兼務)、調理員4名(輪家、いちばんぼし兼務)、OT1名(いちばんぼし兼務、非常勤)、事務員2名(常勤・非常勤各1名、輪家、いちばんぼし、のどか兼務)、送迎職員1名(非常勤)、嘱託医1名(非常勤)  
上記にてスタートした。年度途中での離職者3名(生活支援員2名、送迎職員1名)。補充を図るも定着の困難さあり、看護師1名増。相談を除く事業所間の兼務が多いこともあり1.7:1の人員配置体制加算を堅持することができた。

### 3. 支援体制について

#### ① 健康管理、医療面

◇コロナ罹患で重症化する方が居られなかったことは本当にありがたい。下半期はクラスター発生は無かったものの、利用者の方やご家族、職員、他事業所等、ポツンポツンであるが陽性者の情報はあった。支援者はもちろん、利用者の方のマスク着用も通常の光景となっている。

◇緊急時対応訓練や救急法の学習会その他、利用者の方の入退院に関連した疾病についての学び、健康面でのヒヤリハットをもとにした勉強会等、様々な機会を捉えて知識を高めることに努めている。何度でも繰り返すことが大事と痛感。



◇看護体制も整ってきており、医療的ケアには十分に対応できている状況ではある。職員全体として、緊急時における即応態勢は必須であり、障がいを持った方々の支援にあたる支援者として、個々の障がい特性や持病、服薬状況等、知識として持つ必要のあるものについては、学ぶ機会や時間の確保を図ってはいるが十分とは言えない。個々のスキルアップに対する積極性やモチベーションによるものが多いが、次年度も引き続き継続、強化していきたい。

## ② 日中生活・日中活動支援

- ◇ 日々の日中活動支援については、活動の分野(音楽、創作、運動、レク、調理・感覚)ごとの担当者を決め、担当を中心とした取り組みを継続している。マンネリ化に留意すること、利用者の方に分かりやすい内容の説明や選択肢を設けて個々に選んでいただく等の工夫を少しずつ行っている。
- ◇ 感染症以外にも雨や風、暑さ寒さ等の天候により、外に出ることがなかなか難しかったが、旅行やハロウィンといった行事の他、散策や買い物等にも可能な限り出掛けるようにした。
- ◇ 昼食に時間を要し、午後の活動にしわ寄せが来てしまいがちな点について、状況的には大きくは変わらないが、午後の活動内容を見直し、食後のゆったりタイムとしたり、ストレッチやマッサージの時間であったり、個々好きなことをして過ごされるなど一定の定着が見られている。

## ③ 入浴支援や送迎について

- ◇ 入浴状況は変わらず。家庭の事情であったり退院後等に、ご家族からの要望により入浴を行うことは何回かあった。いつもでは無いが、可能であればお応えしている現状である。  
現在使用中の特殊浴槽については、既に10年以上使用しており、メーカーより後2年でメンテナンスも終了すると言われている。1台700万円を超えるものではあるが必需品なので助成金の情報等も念頭に買い替えを検討したい。
- ◇ 送迎については、月延べ450名前後の方を送迎、迎えと送りで1日とすれば、一日平均20.3名の方の送迎を行っていることになる。車両台数や職員数にもより、現状以上の送迎は厳しいと感じている。それでも、時間を合わせたり急な依頼等、できるだけご要望にはお応えしてきた。  
今年度は、赤い羽根共同募金の助成をいただき、スロープ車を1台購入、送迎をはじめ外出や他の車両不調時等に使用している。
- ◇ 送迎職員については求人しているものの、まだ補充には繋がっていない。

## ④ 開所日(土曜開所、祝日開所)について

- ◇ 生活介護利用の原則日数に合わせて年間の計画を立て、8日間の開所を実施した。利用希望の方が多く、職員も基本全員出勤で対応している。今後、希望者数によってはお断りせざるを得ない状況が出てくると思われる。長い休み(5月連休、年末年始)の前後は特に利用の希望が多い傾向である。
- ◇ 土曜開所も原則日数に沿って月0~2日開所している。祝日開所に比べ、利用希望者も若干少なめである。

## ⑤ 地域交流・ボランティア、地域防災に関して

- ◇ 定期的に行われる農業マルシェや、年に1度の地域のお祭りやバザー等、利用者の方と一緒に、あるいは職員のみで、声が掛かればほとんどの催しに参加した。もちろん町内の溝掃除や道整備にも出られる職員が出て地元の方々と挨拶したり言葉を交わしている。
- ◇ 赤磐地域の社会福祉法人連絡会に参加し、フードドライブへの協力や講師派遣にエントリーしている

- ◇ 赤磐市社協主催の出前講座に初めて参加。すぐ近くの石相小学校 4 年生に車椅子体験をしていただいた。顔見知りになれたことで、通学時等の挨拶も多くなったように思う。
- ◇ 長年ボランティアとして来て下さっている吉岡先生や藤原さん、赤磐地域のシルバーリトミックなどの音楽ボランティアの方々の他、視線入力の見見さん、赤坂の布絵芝居グループの方々が来て下さっている。女性の会の方も毎月来て下さっていたが、来年度からは主に行事時の声かけで来て下さるようになった。
- ◇ 防災に関しては、年 2 回の避難訓練(火災)に消防署の協力も仰いで行うことができたが、火災報知器類一式の扱いにまだ不慣れなところもあり、繰り返しの訓練と振り返りが必要と感じている。
- ◇ 避難所としての機能については、発電機他の備蓄を図りながら市との協定に向けて進めているところである。

#### ⑥ 行事

- ◇ 夏のサマーフェスティバル、秋のハロウィン、下半期いっぱい計画した一日旅行の他、クリスマスや忘年会、書初めや節分、餅つき等の歳時行事にも取り組んでいる。
- ◇ サマーフェスティバルや餅つきは星ふる福祉の郷全体で取り組み、地域の方々にも呼び掛け、多くの方に参加いただき楽しんでいただくことができた。
- ◇ 大きな行事、ちょっとした行事共に多くの利用者の方が楽しみにされている。計画から準備、片付け、振り返りまで、担当者にとっては多忙この上ないとも言えるが、どうしたら思い切り楽しんでもらえるかと工夫したり、一緒になって笑い楽しむことで充実感やモチベーションに繋がることを期待する。

#### ⑦ 生活の場作りに向けて

グループホーム作りに向けては、ご家族と共に他事業所見学(zoom 見学含む)や話を伺い、市長と話の場を持ち、会議を重ねながら少しずつ前に進めつつある。

#### ⑧ 虐待防止・身体拘束廃止について

令和 4 年度より虐待防止委員会(身体拘束適正化検討委員会)の設置が義務化され、法人の委員会はもとより各事業所にも設置されている。法人委員会の 3 ヶ月毎の虐待防止チェックリストによる振り返りを行い、合わせて身体拘束の記録をまとめて事業所内委員会会議を持ち、職員周知を図っている。虐待は見られていないが、不適切支援では？と言われる事例は時に聞かれており、支援向上のチェックリストと共に委員会や全体会議で取り上げ話し合っている。不適切な声掛けや言葉使い、態度を感じたら、その場で注意することが重要だが、状況によっては難しいこともあり、委員会の場でそうした事例を取り上げ、全体に返し、周知を図る中で不適切支援を繰り返さないことを目指している。

#### ⑨ その他

令和 5 年度の年間利用率は前年度とほぼ変わらない(87.2%)が、亡くなられたりコロナ罹患以外にも、入院や長期にわたる自宅療養等で休まれる方がおられる。障がい特性を考えれば、こういった状況は今後も年々(利用者の方の年齢に伴い)増えてくると思われる。(日々の支援に全力を注ぐことは当然のこととして)、そういった状況を見据えながら、新たに高等部を卒業される方々の利用についてしっかりと捉え、考えて行きたいと思っている。

## 令和5年度【いちばんぼし】事業報告

### 1. 事業内容

児童発達支援事業、放課後等デイサービス

### 2. 定員及び契約者数

定員 5 名／日、 契約者数 17 名

(児童発達支援 4 名、うち重症心身障害児 2 名)

(放課後等デイサービス 13 名、うち重症心身障害児 11 名)

### 3. 職員配置

管理者 1 名(他事業所管理者兼務)、児童発達支援管理責任者 1 名、 保育士 2 名(非常勤)

看護師 4 名(常勤兼務 3 名、非常勤兼務 1 名)、指導員 1 名(常勤専従)

嘱託医 1 名(非常勤兼務)、機能訓練担当者 1 名(非常勤兼務)、調理員 3 名(非常勤兼務)

事務員 2 名(常勤兼務 1 名、非常勤兼務 1 名)、送迎職員 1 名(非常勤兼務)

### 4. 支援体制として

#### ① 健康管理

今年度も児発、放デイ共に短期間ではあるが入院された方が居られた。また、発作や発熱等で急にお休みされたり、連絡忘れて休まれるということもあった。健康管理、医療的ケア面ではご家庭や学校との連絡を密にとり、個々児童の健康把握に努めた。また、急なお休みでも他の利用児に声掛けするなど定員の充足も図っている。

#### ② 日課、療育的活動

今年度は七夕で書いた皆の願いを叶えよう、ということで様々な催しや観光地等に出かけていった。そこで、その時しか出会うことのできないものを見聞きし触れて大いなる冒険や経験、体験ができた様で、その時々動きや表情がカメラに残りご家族にも喜んでいただいている。見通しをもって次の動きに進める取り組みも継続しており、個々の成長に合わせた分かりやすい伝え方も試行錯誤している。身体の成長と共に出来ることが増えたり、様々な表情が見られるようになることも大きな喜びとなっている。

#### ③ 入浴・送迎

入浴は週 2 回を継続中。送迎については、放課後等デイサービスの児童の方を対象に希望に副って行なっている。

#### ④ 開所日について(土曜開所、祝日開所)

月に 1～2 回の土曜開所を継続し、色々な場所へ出かけて個々の体験、経験の場を持った。

祝日開所は年に 8 日間実施した。祝日も可能な限り出かけて行く機会を多く持つようにした。

#### ⑤ 虐待防止・身体拘束廃止について

法人委員会による 3 か月毎の虐待防止チェックで振り返りを行なった。虐待は見られないが、身体拘束についての記録やその廃止に向けての検討を行なった。

### 5. 下半期及び今後に向けて

これまで通り、重症心身障害児や医療的ケア児の受け皿となり、医療的ケア対応の充実と共に、療育的活動内容等をより深い取り組みとしていくと共に、必要なご家族への支援にも尽力していきたい。

## 令和5年度【輪家】事業報告

### 1. 事業内容

障害福祉サービス短期入所事業(単独型加算対象)、地域生活支援拠点である。

### 2. 定員及び契約者数及び対象の方

- ・定員 2 名/日、 契約者数 70 名(なずな関係 51 名、児童 12 名、その他 7 名)
- ・対象～重症心身障がい者(児)及び身体障がいの方(ただし、緊急ショート必要時には、障がい種別を超えて可能な限り受け入れていく)

### 3. 職員配置

管理者 1 名(なずな赤磐、いちばんぼし兼務)、短期入所主任 1 名(なずな赤磐主任生活支援員兼務)  
生活支援員 13 名(なずな赤磐、なずな生活支援員兼務)、  
看護師 2 名(なずな赤磐、いちばんぼし兼務)、調理員、事務員はなずな赤磐、いちばんぼし、のどか兼務

### 4. 支援体制

#### ① 利用状況として

短期入所事業も丸 3 年、今年度は年間延べ 162 名の方に利用いただいた。多くがなずな、なずな赤磐、いちばんぼし利用の方々で、体験利用といった意味合いが強いものの、何度か利用いただいている方も多く居られる。また、近辺に短期入所事業所が無いこともあってか、様々な所、障がい種別を超えての問い合わせや見学者も多かった。

今年度初めて赤磐地域の知的障害の方を(ご家族の入院に伴い)一晩受け入れることができた。また、なずな利用の方も同じ理由で数日間受け入れを行った。年々、需要も増してきており、地域の緊急性のある方々、反面、担う職員は全員が他事業所を兼務しており、職員確保は課題である。

#### ② 支援内容及び食事、入浴等

夕方、輪家のそれぞれの部屋に入られてから持ち物の確認や泊りの準備等を行なっている。利用者の方は入浴したりおやつを食べたり思い思いに過ごされている。その後夕食(買って食べたい人は好きなお弁当を買いに出かけることも)、余暇時間を過ごし就寝となる。利用される方によって過ごし方は様々で、ほとんど眠れない方も居られる。最低 1 名の支援員もしくは看護師が泊まっている。

翌日は朝食後(パン食かご飯食)にそれぞれの日中活動事業所へお送りしている。

#### ③ 今後に向けて

年々、需要も増してきており、地域の緊急性のある方々や障がい種別を超えての受け入れも必須と感じているし、そういった期待も大きいと思われる。今後、更なる利用者増でニーズにお応えしていきながら支援者の受け入れ体制を整えると共に、個々の方にとって心底安心でき、充実した時間となるよう努めたい。

## 令和5年度【相談支援事業所のどか】事業報告

はじめに

赤磐市に事業所を移し相談支援事業所のどかとして早3年が経過した。岡山市東区、瀬戸町の相談が主であった瀬戸時代に比べ、赤磐市の契約者の比重が随分大きくなってきた。赤磐市や瀬戸町にある福祉サービス事業所との繋がりも当然強くなり、地域を担う相談支援といった感もあり、それに相応しい事業所への努力が求められてきている。

最近の傾向として精神的な疾病や発達障がいからくる相談件数が多くなっている。福祉サービスへの繋ぎというより、不安への対応や時々困りごとの相談に、夜間含め時間的に多くを取られ、相談に当たるについてゆとりのない1年だったように思える。

常勤から非常勤への勤務となった相談員があり増え続ける依頼の中で心配したが、秋にはお一人相談支援専門員を配属でき、徐々に必要な支援に当たっていただいている。

### 1. 令和5年度相談支援事業所のどか運営体制

管理者（非常勤専従）、相談支援専門員4名（常勤3名、非常勤1名、常勤の内2名は交代にて週3日赤磐市基幹相談支援センターに出向）事務員2名（常勤、非常勤各1名他事業所兼務）

### 2. 相談支援業務の現状と振り返り

#### イ. 計画相談支援、障害児相談支援

今年度の新たな契約者～特定相談支援15名、障害児相談支援12名。契約解除者～計画相談支援2名、障害児相談支援2名）となっている。相談の傾向として精神障がいがある方や発達障がいのある児童の相談ケースが多くあった。当事者の通院や入院に関わる支援や連携に携わってきたように思われる。グループホームにおける入退きの相談、年度を挟んでA型事業所の閉鎖やB型などへの転換等が続き、新たな職場探し絡んだ相談が多かった。

岡山市や赤磐市にはまだ計画相談を利用されていない方が多くおられ、新たな依頼が続くと思われるが、モニタリングや基本相談にじっくり関わるには各スタッフの受け持つ件数が筒一杯と思える現状である。新たな相談員の確保を図る中でニーズに応じていかなければならないと考える。

#### ロ. 一般相談支援（地域移行、地域定着）

作年度は地域定着支援にお一人入らせていただいたが介護保険へ移行、新たな契約者はなく一年が経過した。入院生活やグループホームから在宅やアパート生活に移られた方などはおられたが計画相談支援の中で当たってきた。また、障がいがある方の単身での生活やご家族皆さんに障がいがある中での生活をされている方も多く、安心ある地域生活に向けた支援に関わってきた。

#### ハ. 赤磐市基幹相談支援事業受託

水、木、金の週3日、赤磐市基幹相談センターに当事業所2名が出向し、窓口業務を

始め、複合課題や困難事例等への対応、各関係機関との連携や調整、自立支援協議会の運営、基幹相談支援センター主催研修会の実施等に携わってきた。

ニ. 赤磐市地域生活支援拠点受託

地域生活支援拠点を受託し、常時の連絡体制の下、緊急ショート相談や自殺企図の方への対応、精神不安からくる昼夜問わずの電話等に当たってきた。体制の整理をしていく必要がある状況もあり、拠点としての役割に責任をもってあたる体制を一層進めていきたいと考えている。

ホ. 基本相談支援

福祉サービス利用の相談はもとより、日々にある不安症状の訴えへの対応、引きこもりでの生活から自立生活への支援、ご自宅から所在不明に頻繁になる児童への相談支援、大量買いによる多額の負債を抱えた方の返済や生活支援など、年金、手帳の更新、成年後見等への支援などと共に、時間と多岐な対応を迫られる相談支援に当たるこの一年でもあった。業務整理の見直しや整理に課題を感じる現状にある。

ヘ. 認定調査

この1年は認定調査に携わる件数は少なかった。赤磐市の基幹相談出向の中で依頼されるケースが増えている。

ト. 各種研修、会議への参加

研修：医療的ケア児コーディネーターフォローアップ研修、赤磐市自立支援協議会各分会研修会、計画相談初任者研修、赤磐市虐待防止研修会、赤磐市意思決定支援に関する研修会、泉学園各種研修会に参加

各種会議：赤磐市立学校・相談支援事業所・療育支援事業所連絡会、ピーチネット赤磐運営会議、地区別懇談会、赤磐市相談支援連絡協議会、毎月の当事業所運営会議、ケース会議他

※地域との行事参加等：10月以降分

赤磐マルシェ（偶数月第1土）、星ふる福祉の郷地域交流餅つき、瀬戸公民館パン祭り、星ふる福祉の郷だより各号にのどかとしての記事の寄稿、吉井・赤坂各公民館祭りに星ふる福祉の郷の一員として商品や作品展示に参加。

3. 相談支援利用者状況（令和6年3月末）

イ. 相談契約者数

計画相談地域別契約者数

地域	岡山市								赤磐市	備前市	瀬戸内市	吉備中央町	和気町	玉野市
	東区	瀬戸支所	中区	南区	北区		御津建部	保健センター						
					北	中								
者	36	20	16	3	2	4	4	28	48	3	1	2	1	2
児	13	24	4	0	0	0	1	0	22	1	0	0	1	0

※計画相談合計⇒ 者 173人 児童 66人

※今年度新規契約者数⇒ 特定相談支援 14人 障害児相談支援 11人

〃 契約解除者数⇒ 特定相談支援 1人 障害児相談支援 1人

ロ. 相談形態別人数 (対象者数)

基本相談	障害児相談	特定相談	地域移行	地域定着
者81、児25	66	173	0	0

ハ. 各相談の障がい別人数

状況	身体	知的	精神	重心	発達	精神発達	身体精神	身体知的	知的発達	知的精神	身体高次脳
計画(者)	12	64	23	19	13	2	8	15	7	6	4
計画(児)	4	9	0	5	30	0	0	1	17	0	0

ニ. 基本相談内容別数

相談内容	福祉サービス利用	障がい病状の理解	不安の解消 情緒の安定	健康・医療	療育・教育	経済生活	家族他人間関係
件数	121	9	72	67	19	7	29
相談内容	社会参加・余暇	権利擁護(成年後見等)	事業所関連	就労に関すること	生活相談	虐待	その他
件数	0	68	7	21	93	8	132

合計 653件

ホ. 計画及びモニタリング別請求件数 (令和5年4月～令和6年3月)

内訳	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
	者	モニタリング	13	11	13	15	11	32	26	17	16	16	21	30	208
		計画	24	17	26	13	15	17	9	16	17	7	10	17	188
児	モニタリング	7	11	6	4	3	6	6	5	2	2	5	5	62	
	計画	7	1	2	2	5	5	5	4	5	3	5	9	53	

4. 相談業務の今後に向けて

この一年も計画相談はもとより、様々な相談支援、地域の集まりやイベントなどに積極的に参加してきた。そうした中、赤磐市在住の方を中心にこの一年も相談依頼が増えてきている。その中であって、相談が多岐にわたること、昼夜を問わずかかってくる電話への対応等、時間がないという相談員の声がある。計画相談支援の各ケースに落ち着いて取り組めていないのが実情である。次年度は、時間の確保に向け、より効率的な事務処理や相談者への関わり方など検討していく必要がある。

基幹相談支援センターや地域生活支援拠点として委託を受けているのどかとして、赤磐市の相談支援体制の充実を図っていく役割がある。赤磐市を始め、関係する事業所や機関としっかり協議を重ね、支援の輪を大切にしつつ、当事者やご家族の安心と希望の持てる暮らしに一層、腐心していかなければならない。これからも皆さんの課題やニーズにしっかりと寄り添った相談支援事業所のどかでありたいと考える

## 令和5年度【ワークショップちどり】事業報告

令和5年度は2名の新規契約、2名の契約解除があった。昨年度平均利用者数は19.1名/日と定員いっぱいの状態であった。利用率の向上を課題としていたが達成された。

加齢に伴い機能低下が進むご利用者もおられる状況での高齢化に対応した支援。心因性の辛さを抱えた方をはじめ障害の重度化に対応した支援。支援の専門家として、スキルを向上させて通いなれたちどりに安心して通い続けられる支援を提供する必要性を痛感した一年であった。将来的に支援が困難になっていくことは既定路線。その困難ケースを一人で抱え疲弊することが無いように、支援者一人ひとりが支援力向上を図り、チームとして質の高い支援を提供出来る様に努めたい。

近隣の高齢者施設との行事を通しての交流は依然として停止している。一方で、毎月実施している地域清掃への参加の打診があり、高齢者施設の職員が参加して下さった。出来る範囲で交流を模索した。

### 1、定員及び利用者状況

- ・定員：20名（変更なし）
- ・契約者数：21名      令和5年度平均利用率 95.5%    ( 19.1人/日 )

### 2、職員配置

- ・管理者・サビ管1名（兼務）    目標工賃達成指導員1名      生活支援員3名
- 生活支援員1名（パート）      事務員1名（パート）

### 3、作業及び活動の取り組み

〈作業〉

#### ・紙製品

バザー開催が回復したことと合わせて、既存のお客様からの注文が好調だったこともあり売上を維持できている。

紙漉き工程に関わるご利用者の育成とお花付けに関わるご利用者の育成に努めた。

紙すきワークショップの相談を数件いただき実施した。

インクの値上がりから、今後はコストパフォーマンスが課題となる。

#### ・受託作業〈ドッグフード等〉

取引先との信頼関係も良好。取引先から提供される作業の内容が変化しており、これまではパターン化された簡単な作業が多かったが、少量多品種で少々難易度の高い作業が増えてきた。どなたでも参加でき、手隙が生じないよう作業提供に努めた。定番商品の大量生産が減ることで、収入が下がっている事が課題。

#### ・施設外就労

大和運送において、8月末突然事業停止の報告を受けた。12月末まで猶予期間をいただき作業が細々と継続。急激な変化は回避できたが、新たな作業開拓を余儀なくされた。3月より試験的に(株)濱田において廃棄物解体作業が開始された。参加人数が3名であり、今後参加人数が増やせるか課題。

島村青果では3月まで作業提供していただけた。例年1月末には柑橘類の収穫が減少すること



から、作業提供がなくなるが、調整をしていただき作業を継続して提供して下さった。

4月より長島愛生園清掃作業が新たに始まった。清掃方法について様々模索している。

・委託販売、バザー

バザーが回復し、積極的に参加したことで収入増加に繋がった。

通り沿いの花苗の販売は秋以降入荷がなかった。お客様は殆どリピーターであり、問い合わせが続き、皆さん残念がられた。丁寧にご説明させていただいた。

各作業の令和5年度収入状況について以下の通り（前年度比）

・紙製品作業	収入	958,697	(100%)		
・受託作業	収入	1,138,552	(▲295,000)		
・施設外就労	収入	3,413,649	(1,419,000)		
・委託販売	収入	340,503円	(53,000)		
・その他	収入	24,446円	(▲7,000)	合計	5,875,847円 (125.0%)

利用者工賃：平均工賃支給額（新算定方式）月平均額：20,215円（総支給額4,654,505円）

R6.5.9 平均工賃のお知らせを全員へご説明、資料配布

〈活動・土曜日開所〉

第3土曜日の開所日は担当者を中心にご利用者の意見を伺い、季節に合った行き先・ご利用者が多く参加出来る内容を検討し、社会体験の学びの行事となるよう実施した。金銭的負担とならない様に、外出とちどり内での行事（夏祭り、クリスマス会、調理実習など）工夫をした。泊を伴う社会体験も予定通り（関西方面）実施した。

〈地域交流〉

防災訓練やクリスマス会などの行事で交流させていただいている近隣の老人施設との交流について、担当者間で相談をしたが、今年度も実施に至らなかった。水害の避難訓練時に駐車場までの避難訓練は協力を得られた。

毎月活動後の時間に実施している地域清掃に参加して下さる老人施設職員、施設利用者が増え、活発化している。ちどりのご利用者も回を重ねるたびに打ち解けている様子。

4、リスク管理・苦情解決

〈ヒヤリハット・事故発生〉 3件（内ご利用者間のトラブル 岡山市へ報告 1件）

〈苦情・意見〉 なし

終礼時、リスクにつながる事象を報告し、発展しない取り組みを徹底した。